

様式【学校評価資料】

総社西小学校

学校経営目標	具体的計画	令6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	・ピア・サポート・SELを通して、自分の気持ちをコントロールし互いに支え合う人間関係をつくることのできる子どもを育てる。 ・児童アンケート⑦⑪⑫ 「友達と仲よくし助け合ってますか。」 「いやなことがあったとき、自分の気持ちを落ち着かせることができますか。」 ア よくできている。 イ できている。 ウ あまりできていない。 エ できていない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的な回答が⑦は、95%、⑫は85%であった。	A	どちらも肯定的な回答が多く、自分の気持ちをコントロールし支え合う人間関係が形成されていると考える。引き続きピア・サポート・SELを計画的に行っていく。	肯定的な回答が⑦は97%、⑫83%であった。1学期と変わらず肯定的な回答が多い。	A	児童では、殴り合いのけんかなどすくなく自分の気持ちをある程度コントロールすることができているのだと考える。引き続き、計画的に行っていく。	自己評価は適切である。
	・グッドビヘイビアカードを活用し、よい行いを評価し、児童の自己肯定感を高める。 ・児童アンケート⑧ 「自分のよいところがいますか。」 ア たくさんいえる。 イ いえる。 ウ あまりいえない。 エ 全くいえない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的な回答が⑧は、70%、否定的な回答が30%であった。自己肯定感が低く、自分のよいところが分からない児童が3割近くいることが分かった。	B	児童本人ではなかなか自分自身のよいところを見付けることができないので、グッドビヘイビアカードを通して児童のよいところを伝え、自己肯定感を高めていきたい。担任外の教員もグッドビヘイビアカードを書いていく。	肯定的な回答が、81%と1学期より11%も肯定的な回答が増えている。	A	グッドビヘイビアカードや人権週間を通して自分の良いところを伝えていけるという機会が増え、自己肯定感が高まったのだと考える。引き続き、グッドビヘイビアカードの取組を行っていきたい。	自己評価は適切である。 自己肯定感を高める取り組みとして、学校外の地域でも取り組んでいきたい。
	・品格教育行い人格形成をはかる。 ・児童アンケート⑩ 「週目標を守っていますか。」 ア いつも守っている。 イ 守っている。 ウ ときどき守っている。 エ 守っていない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的な回答が⑩は、95%であった。週目標について毎日振り返りを学級全体で行い、シールという視覚的なもので確認していることで肯定的な結果となったと考える。	A	引き続き、帰りの会で確認を行ってできた。シールを貼る活動を行っていく。今年度から週目標の反省を終礼で行い、具体的な目標を立てたため、高い数字になったと言える。	肯定的な回答が⑩は、90%であった。1学期と比べ5%肯定的な回答が下がっている。	A	終礼で、今の学校の課題に合わせて週目標を設定していったので、結果がさがったのだと考える。引き続き、終礼で週目標の反省を行い、具体的な目標を立てていきたい。	自己評価は適切である。
活2 習慣健康 ので育た 成くやま 保し・子 安ども 全指をも 導育て の充た 実るめ を図に る基本 的生	・げんきな子カードを活用して規則正しい生活をしようとする子どもを育てる。 ・児童アンケート⑬保護者アンケート⑦ 「早寝・早起きができていますか。」 ア いつもできている。 イ だいたいできている。 ウ あまりできていない。 エ できていない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的な回答が児童⑬は78%、保護者⑦は80%であった。	B	5月「生活しやきつと週間」での指導もしているが、否定的な回答をしている児童・保護者が一定数いる。継続的に、児童への指導や保護者への啓発をしていく。	肯定的な回答が児童⑬は79%、保護者⑦は80%であり変化がなかった。	B	児童が生活習慣をコントロールできるように、保護者への啓発活動を続けていく。	自己評価は適切である。
	・業間休みは必ず外で遊ぶように促し、体を動かすことが好きな子どもを育てる。 ・児童アンケート⑪ 「体を動かすことは好きですか。」 ア はい。 イ どちらかといえばはい。 ウ どちらかといえばいいえ。 エ いいえ。	伸びのあった児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的な回答が児童⑪は92%であった。	A	昨年度に比べたら、肯定的な回答が増えてきている。しかし、否定的な児童が少数いるため、外遊びの楽しさや体を動かすことの楽しさを、体育委員会・げんきな子部会で呼びかけていく。	肯定的な回答が児童⑪は94%であった。	A	1学期に比べたら、肯定的な回答が増えてきている。今後も、クラス遊びや委員会等で楽しさを伝えていく。	自己評価は適切である。

様式【学校評価資料】

総社西小学校

学校経営目標	具体的計画	令6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
3 確かな学力の育成	・伝え合う活動を取り入れた協同学習を中心とした授業づくりを通して、自身の考えを表現することができる児童を育てる。 ・児童アンケート②④⑤「学校の授業がよく分かりますか」「ノートに自分の考えを書くことができますか。」 「授業中自分の考えを友達に伝えることができますか。」 ア はい。 イ どちらかと言えばはい。 ウ どちらかと言えばいいえ。 エ いいえ。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的回答が、②で91%(3%↑)④で86%(3%↓)、⑤アで85%(9%↓)という結果	A	昨年度より授業をよく理解できていると感じている児童が増えている。特別活動の研究を進める中で、話し合う場面やポイントが明確になったことにより、児童にとってははやくできていないと感じる場面が増えているのではないかと考えられる。引き続き相手に伝えるときのポイントを意識させ、指導を行っていく。	肯定的回答が、②ア56%(5%↓)＋イ37%(7%↑)で93%(2%↑)、④ア58%(7%↑)＋イ33%(2%↓)で91%(5%↑)、⑤ア60%(4%↑)＋イ31%(2%↑)で91%(6%↑)という結果	A	7月よりも児童が自分の考えをノートに書くことができていたり、自分の考えを友達に伝えることができていたりしていると感じている結果が出ている。授業の理解度については、保護者の回答も1学期より肯定的な回答が増えている。学級活動について研究を進めてきた成果が少しずつ出ているのではないと思う。引き続き、今までの指導を今後も行っていく。	自己評価は適切である。タブレットを効果的に使うことと表現する方法の書いて伝える力をもっとかりと身に付けていってほしい。
	・読書タイムや読書通帳等の取組を通して、読書をする習慣がついている児童を育てる。 ・児童アンケート⑥保護者アンケート④「一か月で5冊以上本を読んでいますか。(学校・家庭)」 ア はい。 イ どちらかと言えばはい。 ウ どちらかと言えばいいえ。 エ いいえ。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的回答が、⑥アで82%(児童)④で66%(保護者)が読書をしていると感じている。	B	昨年度からの指導により、学年相応の本を借りる児童は増えている。また、読書通帳の活用を1学期から実施しており、読書に対する意欲は高まっている。読書通帳を有効に活用することで、児童の読書の内容や冊数などを保護者に周知していく。	肯定的回答が⑥ア69%＋イ18%(5%↑)で87%(5%↑)(児童)、④ア44%(5%↑)＋イ26%で70%(4%↑)(保護者)が読書をしていると感じている。	A	校内読書週間の取組や各担任の指導により、読書の幅が広がっている。また、読書通帳1冊分の冊数を100冊に減らしたことにより、読書通帳への意欲が高まったことも効果があったと考えられる。来年度は読書通帳を下学年は今まで通りの冊数で、上学年はページ数でカウントしていくことで、さらに読書への意欲を高めたい。	自己評価は適切である。
4 活力ある学校づくり・信頼される開かれた学校づくり	・学校だより・学年だより・HP・メールなどの内容やタイミングを工夫することにより、西小の教育方針や様子が保護者に分かりやすく伝わるように努める。 ・教育アンケート⑩⑪(保護者) ア 十分できている イ おおむねできている ウ やや不十分 エ できていない	ア+イが学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的回答が保護者⑩は89%(↓2%)保護者⑪は90%(↓3%)であった。	A	昨年度の同時期比較においては、「はい」と回答した数値は上がっているものの、昨年度よりははやや不十分が増えている。今回からスタートしたメールでの一斉配信「すぐる」が保護者へより分かりやすく配信していくように工夫し、HPも様式を新たに、より学校からの情報が保護者に届くようにしていく。	肯定的回答が保護者⑩は92%(↑3%)保護者⑪は93%(↑3%)であった。1回目との比較においては、⑩「おおむね」と回答した数値が3ポイント上がっている、⑪は「十分」が3ポイント増えている。	A	今回からスタートしたメールでの一斉配信「すぐる」が保護者へ次第に定着してきつつあるのと、HPも様式を2学期に新たにすることが要因と考える。引き続きより学校からの情報が保護者に届くようにしていく。	自己評価は適切である。すぐるやホームページで発信することと学校だよりなどを紙面で発信することも同じくしていってほしい
	・関係機関、保護者、地域の人材等を講師や協力者として活用し、教育活動の充実にも努めるとともに、本校教育活動への理解を深める。	教科、総合的な学習、行事等に関わった地域、その他の人材の数。 のべ人数が A 120人以上 B 100人以上 C 80人以上 D 80人未満	放課後学習、各教科、行事、環境整備で91人(のべ)参加した。環境整備活動では、地域コーディネーターを中心に草刈りのボランティアを6月にいただき、運動場を中心に除草していただいた。	C	さらにあと2回の環境整備活動や行事等で地域の人材を広く集めて学校でできることに活躍していただくようにして教育活動により理解を深めてもらうようにする。	放課後学習、各教科、行事、残り2回の環境整備で250人(のべ)参加した。環境整備活動では、地域コーディネーターを中心に草刈りのボランティアを9月にいただき、運動場を中心に除草していただいた。さらに10月も行い、35名の協力を得られた。	A	放課後学習は、メンバーが固定されており、いろいろな学年において児童の丸付けを行ったが、次年度に向けてどのような形がボランティアとして適正に関わるのか共通理解を図っていく。	自己評価は適切である。地域の人材の協力を得ているとともに将来地域を支えていくPTA(保護者)からも協力が得られるようにしていく。
	・資質向上のため、職員のニーズに合った研修の機会を積極的に設ける。 ・年間の校内研修の実施回数(校内研究授業除く) ア 10回以上 イ 8、9回 ウ 6、7回 エ 6回未満	A ア B イ C ウ D エ	校内研修実施回数は、10回行った。	A	働き方改革もあり、取捨選択して精選した内容で時間を決めて行った。研究発表会に向けてさらにニーズに応じた研修会を行っていく。	校内研修実施回数は、23回行った。2学期以降には11月の研究会に向けて研修を行った。	A	校内研修以外の研修(安全・コンプライアンス等)の研修も行った。働き方改革もあり、取捨選択し、時間の設定を工夫して精選した内容で行った。	自己評価は適切である。
性5 の 幼 小 教 育 が 連 携 進 ず 連 続	・「まず行動」「さわやかあいさつ」「きょうりよくする心」を柱にして、保幼小中が共通の認識のもと、子どもたちを育てる。 ・教育アンケート(保護者) ア 十分できている イ おおむねできている ウ やや不十分 エ できていない	ア+イが学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者アンケートの結果では肯定的回答が、③家庭学習78%・⑤あいさつ89%・⑨メディアコントロール78%であり、昨年度よりも減少傾向である。	A	③と⑨については、特に課題が大きい。メディアコントロールを学校保健委員会テーマにし、児童の意識を高めるとともにさらに徹底に向けて家庭への啓発を工夫し継続する。課題の有る児童へのメディアコントロールの具体的な指導と家庭との連携を強化していく。	肯定的回答が、③家庭学習76%(2%↑)・⑤あいさつ91%(2%↑)・⑨メディアコントロール78%であり、前回と比較してあいさつは向上しているが、家庭学習についてはやや減少した。	A	メディアについては生活しゃきつと週間(ノーメディアデー)を中心に児童主体の取組を進め、学校保健委員会・学級懇談を通して保護者へ啓発していく。児童の意識は向上したが実践が伴うよう、さらに具体的な指導と家庭との連携が必要である。	・自己評価は適切である。